



CQM(超短期経済予測モデル)

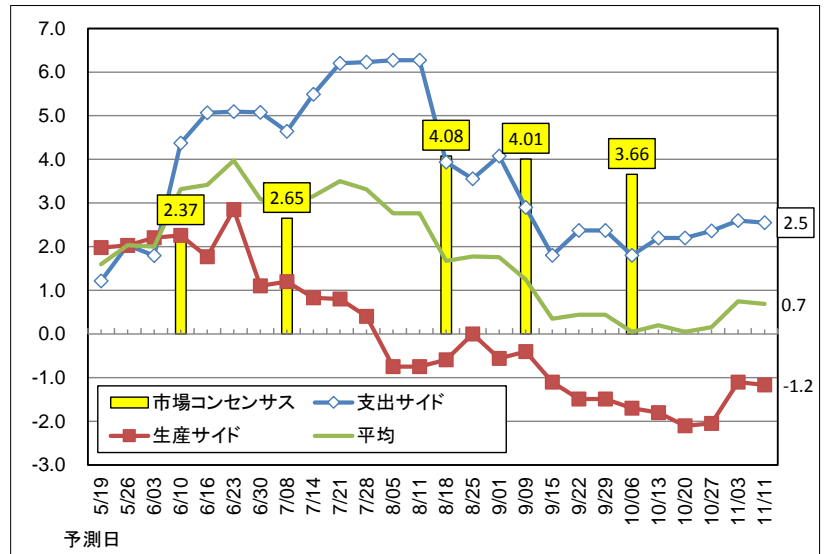
稲田義久(APIR 数量経済分析センター長)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2014年11月11日)

ポイント

- ▶今週の予測で更新されたデータは、10月の財政資金対民間収支及び9月の毎月勤労統計である。これらは、公的在庫品増加及び雇業者報酬の予測値に影響を与える。
- ▶9月の現金給与総額は前年比+0.8%上昇した。7カ月連続のプラス。しかし、実質賃金は同-2.9%減少し15カ月連続のマイナス。
- ▶9月の一致指数は前月比1.4ポイント上昇し2カ月ぶりの上昇となったが、内閣府は景気の基調判断を2カ月連続で「下方への局面変化を示している」とした。
- ▶今週の支出サイドモデルは、7-9月期の実質GDP成長率を前期比年率+2.5%と予測。先週から小幅下方修正。公的在庫品増加の予測値が下方修正されたためである。
- ▶17日に7-9月期GDP1次速報値が発表されるので、同期の成長率最終予測となる。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2014年7-9月期(%, 前期比年率換算)



<7-9月期実質成長率の最終予測は前期比年率+2.5%>

先週(11/3-11)更新されたデータは、10月の財政資金対民間収支、乗用車新車販売台数、9月の毎月勤労統計及び景気動向指数である。これらは、公的在庫品増加及び雇業者報酬の予測値に影響を与える。

9月の現金給与総額は前年同月比+0.8%上昇した。7カ月連続のプラス。現金給与総額を消費者物価指数(持ち家の帰属家賃を除く総合)で除した実質賃金は同-2.9%減少し、15カ月連続のマイナスとなった。

9月の一致指数は前月比1.4ポイント上昇し、2カ月ぶりの上昇。景気の基調を判断するための、一致指数の3カ月移動平均は同0.13ポイント上昇し、6カ月ぶりの上昇。7カ月移動平均は同0.47ポイント低下し、4カ月連続の下降となった。結果、内閣府は景気の基調判断を、2カ月連続で「下方への局面変化を示している」とした。

10月の財政資金対民間収支(食料安定供給)は事前予測を下回ったため、7-9月期の実質公的在庫品増加の予測値は先週から小幅下方修正された。

結果、今週の支出サイドモデルは、7-9月期の実質GDP成長率を前期比+0.6%、同年率+2.5%と予測。先週の予測(+2.6%)から小幅下方修正となった。公的在庫品増加の予測値が下方修正されたためである。10日に発表予定であった9月の消費総合指数は発表延期されたので、今週の予測には反映されていないことに注意。

なお、17日に7-9月期GDP1次速報値が発表されるので、今回は同期の成長率最終予測となる。10-12月期、2015年1-3月期とも超短期予測は緩やかな回復を予測しており、実質成長率は2014年+0.8%、2014年度-0.1%にとどまる。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690